

補正予算特別委員会産業建設分科会会議記録
(補正予算審査)

1. 日 時	平成29年12月11日 10時45分開会 平成29年12月11日 15時10分閉会
2. 場 所	議員協議会室
3. 出席議員	小島政行座長、國里修久副座長、前田えり子委員、足立義則委員、大上和則委員、園田依子委員
4. 会議に付した事件	議案第86号 平成29年度篠山市一般会計補正予算(第8号) 議案第87号 平成29年度篠山市下水道事業特別会計補正予算(第2号) 議案第88号 平成29年度篠山市農業集落排水事業特別会計補正予算(第2号) 議案第91号 平成29年度篠山市農業共済事業会計補正予算(第2号) 議案第92号 平成29年度篠山市水道事業会計補正予算(第2号)

5. 議事の経過
開会 10:45
小島座長 開議宣告
■日程第1 議案第86号 平成29年度篠山市一般会計補正予算(第8号)
【主な説明】 まちづくり部より補正予算書に基づき説明(地域計画課)
【主な質疑】
小島座長 市営住宅管理費に関し、土地の所有などで問題点はあるか。
まちづくり部 福住団地は2~3階部分は市、1階部分は財産管理組合が管理している。修繕等も2~3階を市、1階を財産管理組合が行うことの棲み分けができしており、これまで特に問題はなかった。
前田委員 土地も共有か。
まちづくり部 土地を買うときに10分の3を組合が負担しているが、名義は篠山市になっている。
小島座長 こうしたケースは特殊なのか。管理上で特に問題となる点はないか。
まちづくり部 共有部分とゴミステーションについてはどうするか、建物全体を40~50年後に解体するときはどうするか、との話はあった。
まちづくり部 市営住宅で共有部分があるのは福住団地だけである。

【主な説明】

まちづくり部より補正予算書に基づき説明（地域整備課）

【主な質疑】

園田委員 国庫補助道路整備事業に関し、市道牛ヶ瀬犬飼線はあまり車の往来が多い道路ではないが、ブロック積みがずれた原因は何か。

まちづくり部 ブロック積みが2段に分かれて積まれているが、上段のコンクリートが劣化で破損し、そこから雨水が浸透することで下段ブロックの背面にある土が沈下した。これにより、ブロック積みも沈下し、クラックが生じたと考えている。

園田委員 現場は高台の箇所であるが、このような積み方で問題が生じている箇所は他にないか。

まちづくり部 こうした構造は現在の基準では施工することはできないが、市内に同様の構造の箇所があるかは把握できていない。ただし、当該現場については、破損した箇所15mに連続して同じ構造がさらに15m程度続いているが、破損箇所は始めの15m部分のみである。

園田委員 今回は破損した区間だけを工事し、それ以外の区間は問題がないと考えてよいか。

まちづくり部 破損した15mの区間では小段のコンクリートの沈下も現場で確認しているが、続く15mの区間では小段のコンクリートが健全な状態である。雨が浸透する心配はなく、すぐに破損する状態になるとは考えていない。

小島座長 小段を作る理由はあるのか。破損箇所に向かって左側は一面のコンクリートで擁壁ができていますが、破損箇所は小段があり二面になっている理由は何か。

まちづくり部 コンクリートブロック積みは直高で5mまでしか積めないとの基準が昔からあるため、少し控えた場所から2段目を積んでいる。現在の基準では、ずらして2段目を積んでも直高で5mを超えているため、採用できない工法であるが、当時の基準では可能であった。

前田委員 国の内示に従って国庫補助道路整備事業を減額し、長寿命化計画が作られていく段階であるが、計画を立てていたことができなくなり心配はないか。

まちづくり部 現在、市で所有する橋梁長寿命化修繕計画は目視点検を基に作られ、運用している。近接目視で点検し、4段階表示しているが、4判定は緊急的に通行止めが必要となっている。3判定については、次期点検の5箇

年以内に修繕を実施することになるが、点検 3 年目で応急の修繕も行いながら進めているため、直ちに落下する危険がないことを確認している。来年度点検が終了した時点で近接目視のデータを基に修繕計画を作り直すことになるため、現時点では必要な対応ができている状況である。

足立委員 国の内示で 8 路線が削られているが、地元への説明は。

まちづくり部 予算要求の段階ではどの程度の内示になるかわからないため、地元に対して具体的な連絡はしていない。ただし、橋梁については、長寿命化修繕計画を策定し、市ホームページで公表しているため、これに基づいて修繕を進めるのが基本であるが、再度、近接目視の点検に基づいて判定しているため、危険度の高い箇所から順次取り組み、その都度自治会に連絡していく。

足立委員 牛ヶ瀬犬飼線の 5,358 千円は、工事代を含んだ設計の委託料か。

まちづくり部 今回の補正については委託料のみである。現地の測量と、安定計算を含む設計を今年度中に終え、来年度に本体工事を予定している。

足立委員 5,358 千円が設計業務か。

まちづくり部 そうである。

前田委員 河川災害復旧費に関し、台風の大雨で川がえぐられたが、ダム水はその際に放流したのか。ダムの放流でえぐれたり危険な状態になったと聞いた。みくまりダムや栗柄ダムでは、大雨や台風時に放流を考えておかないといけないと思うが。

まちづくり部 栗柄ダムとみくまりダムについては、生活用水を取水しているため、台風による事前放流はしていない。ただし、農業用のため池では、ため池管理者が事前放流を行い、水を溜める機能を確保している。

前田委員 先の大雨の際に放流したのではなかったのか。

まちづくり部 放流はしていない。

まちづくり部 みくまりダム及び栗柄ダムには、常時水位時の洪水吐と、その上に多く水が溜まった際の非常用洪水吐があり、両方からの放流で一挙に水量が増える可能性はある。常時水位から上の非常用洪水吐までの貯留では一定の放流であるが、それを超えると上流からの流入水はそのまま放流される。推測では、その状況の可能性はある。川代ダムでは事前放流をしているが、みくまりダム、栗柄ダムでは放流するシステムはあるものの、その際は事前に警報を鳴らすので、通知なしに放流することはない。

前田委員 ダムの水が流れることによる影響は特にないと考えてよいか。川がすごく深くなったと聞いた。

まちづくり部 ダムができて流域面積は変わっていないため、放流しない限り降っ

た雨が流れるだけなので、水の絶対量が増えることはない。

小島座長 国庫補助道路整備事業での国の方針と、今回減額が生じた大きな要因は。

まちづくり部 国ベースで特に予算が減額となった話は聞いていないが、緊急度が高い箇所に予算が配分されている可能性はある。昨年の市道大沢新栗栖野線のような事業完了を目前とした箇所では配分が良いが、長寿命化修繕計画は全国規模の事業となるため、配分が少なくなっていると感じている。

小島座長 全体の金額ベースではなく、優先順位による振り分けで変わってくるのか。

まちづくり部 そうである。

大上委員 道路橋りょう災害復旧費に関し、市道曾地中線が陥没した原因はなんだと考えられるか。

まちづくり部 原因としては、一級河川曾地川に接しているため、曾地川の水位が上がり、かつ、水の流れも速くなったことで、道路と兼用している護岸が崩壊したと考えている。道路と河川で効用の高い方、利用と効果が高い方で災害復旧を行うと申し合わせがあるため、今回、市道の管理者である篠山市が工事を実施することとなっている。

大上委員 かつてない雨で水流がきつく、徐々に被災していったと思うが、コンクリートの構造で水流を変えた場合、対岸の民家に影響することはないか。

まちづくり部 今回崩れていた側を水が流れ被災したが、河川の真ん中を掘削し、水のは真ん中を流れるように応急工事で実施した。本来、どちらか一方の護岸側を流すことは危険を伴うため、家が立ち並ぶ側に流すことはしないので、対岸の民家に影響を及ぼすことはない。今回の工事で市道側の構造物は十分な根入れを確保した構造になる。

小島座長 本来は川の水が原因であるが、市道で対応するように取り扱うルールはあるのか。

まちづくり部 兵庫県と篠山市だけでなく、国で災害復旧の取り決めとして、効用の高い方で災害復旧事業を実施することとなっている。

小島座長 効用とは何か。

まちづくり部 効果と用途である。

休憩 11:45～13:00

【主な説明】

上下水道部より補正予算書に基づき説明（経営企画課）

【主な質疑】

（なし）

■日程第2 議案第87号 平成29年度篠山市下水道事業特別会計補正予算（第2号）

【主な説明】

上下水道部より補正予算書に基づき説明（経営企画課）

【主な質疑】

國里副座長 公共下水道事業に関し、薬品費が減額になった理由は何か。

上下水道部 平成27、28年度の事業で篠山衛生センターの長寿命化工事を行い、脱水機を更新したことにより、以前のベルトプレス方式からスクリーンプレス方式に変更し、凝集剤の使用量が少なくなった。

國里副座長 今後もその方式で少なくなると考えて良いか。

上下水道部 平成30年度以降も減額の方向で考えている。

前田委員 元々の薬品費はいくらだったのか。

上下水道部 当初予算見込で10,015千円であり、約半分になる。

足立委員 償還金の元金で1,100千円が増えた理由は。

上下水道部 下水道事業の公営企業会計への移行事務にかかる借入金について、当初の予定では元金償還を数年据置く予定としていたものを、実際に借入する際に据置なしで借入したことによるものである。

小島座長 国費の前倒しとはどのような内容か。

上下水道部 国の平成30年度予算見込が現時点で不透明の中、平成29年度予算との差額について県と国費の使用協議を行い、30年度実施予定分を今年度の予算で事業を行うものである。

園田委員 特定環境保全公共下水道事業に関し、委託料の減額の理由は何か。

上下水道部 競争入札の結果、その差金について減額するものである。

園田委員 競争入札でそれだけ減額になるのか。

上下水道部 設計業務委託であり最低制限価格を設けていないため、かなり安く落札されたと考えられる。

小島座長 特環の立杭処理場において、委託を直営にした理由は。

上下水道部 統廃合や臭気対策についてこれまで地元と協議を進める中で、汚泥の運

搬業務を直営で実施することにより地元からの臭気への意見やニーズに速やかに対応できることから、今年度よりあさぎり苑の職員による搬送を実施している。

小島座長 今後も事業費の節約につながる取組みとして精査を引き続きお願いしたい。

■日程第3 議案第88号 平成29年度篠山市農業集落排水事業特別会計補正予算（第2号）

【主な説明】

上下水道部より補正予算書に基づき説明（経営企画課）

【主な質疑】

（なし）

■日程第4 議案第92号 平成29年度篠山市水道事業会計補正予算（第2号）

【主な説明】

上下水道部より補正予算書に基づき説明（経営企画課）

【主な質疑】

小島座長 資本的支出に関し、県土木事業による歩道設置工事で水道管の移設が不要になった理由は何か。

上下水道部 県道長安寺西岡野線の東木之部地内の歩道設置工事に係る水道管支障移転については、当初予算を計上する際、前年の時点で県の事業計画を基に工事予定箇所を判断し計上していたものであるが、県の工事区間が若干変更となったため水道管が支障にならなくなったためである。なお、平成30年度以降に改めて予算に計上していくことになる。

大上委員 消火栓の蓋の管理は上水道課か。

上下水道部 消火栓の管理担当は市民安全課であるが、修繕が必要になった場合は、上水道課で修理を手配し、その費用を一般会計の市民安全課で負担してもらうことになる。

大上委員 消防団の点検時に消火栓の蓋が固くて開かない。車道にある消火栓は車が踏みつけて固くなっているが、蓋を開きやすくする方法はないか。

上下水道部 市内では地下式の消火栓が多く、砂が噛むなどして固着していることが多いが、蓋の端をこじ開けると簡単に開けることができる。消火栓は水道本管上にあり、車道の下に本管が埋設されていることから、車道に消火栓

が多く存在する。車両の通行位置でないところに移設するためには費用もかかることから、今後の更新工事を行う際に考慮していきたい。

■日程第1 議案第86号 平成29年度篠山市一般会計補正予算（第8号）

【主な説明】

農都創造部より補正予算書に基づき説明（農都環境課）

【主な質疑】

小島座長 混交林整備事業に関し、台風21号による作業道の災害復旧が予定されているが、災害がある度に復旧するのか。

農都創造部 混交林整備事業後、復旧対処する期間は定められていないと思われるが、今回予定地の迫入は事業終了直後であり、作業道を活用する必要があることから復旧対象とした。経費は全て県民緑税による県費である。

【主な説明】

農都創造部より補正予算書に基づき説明（農都政策課）

【主な質疑】

小島座長 生産調整対策事業に関し、特産振興プラン作成に伴う最終的な目標はあるのか。

農都創造部 特産物の作付けに必要な機械助成等も用意しているので、機械導入のきっかけ作りや共同利用化への誘導を想定している。

小島座長 同プランの対象となる農家の定義は。

農都創造部 生産調整に係る営農計画書の提出のある農家としており、土地持ちの非農家は対象としていない。

前田委員 何をもって農家とするのか。

農都創造部 農業経営をされている事が必要である。土地持ち非農家や土地なし非農家であっても、農地法や農地経営基盤強化促進法等による手続きを行えば、農家として考えられる。

國里副座長 同プランは全集落で策定が必要としているのか。

農都創造部 手を挙げた集落により取り組む予定にしており、あくまで任意であり、強制するものではない。

國里副座長 集落によっては「難しいから策定しない」等の意見が出て、同プランにより特産物を振興しようとする市の思いが農家に伝わらないことも想定される。同プランは、篠山市全体の特産物の生産振興となるので、手を挙げ

なかった集落にも取り組んでもらえる手立てが必要と感じる。

農都創造部 積極的な推進に努める。

小島座長 同プラン作成の後、実際に特産物を作付し実行してもらおう事が目的と考えるが、どうか。

農都創造部 同プランの策定により課題を把握する事で、人・農地プランへ繋げるのが目的であるが、農政協力員はプラン作りに慣れていない。集落内で話し合いを行う事で次のステップに進みやすくしていきたい。

小島座長 同プランに基づいて特産物を作付けした場合、支援はあるのか。

農都創造部 平成 30 年度事業において、特産物の作付けに応じた助成を考えたい。

國里副座長 人・農地プランは必要性があると思うが、現状では営農活動のできる人が多く、「10 年後にはどうしよう」と考える農家が少ない。10 年たってからこれからどうしようとするのでは遅いので、いつまで一人で農業ができるのかなど集落の実情を知ってもらおうきっかけづくりとして、特産振興プラン策定の機運を盛り上げてほしい。

農都創造部 そうした気持ちで取り組んでいく。特産物の生産拡大や集落営農の取組みに向けて話し合ってもらおうきっかけづくりとして同プランの策定を活用していきたいので、支援についてもしっかり行う。

國里副座長 同プラン策定交付金について、固定額 2 万円と農家 1 戸当たり 2 千円となっているが、もっと増額するような議論はあったか。

農都創造部 集落での話し合いや共同利用農機具の購入に使ってもらおう額として、もう少し増額も考えたが、人・農地プランが 10 万円の助成であることから、適当な額と考えている。

前田委員 地域で取りまとめを行うような人が必要である。農政協力員だけでは難しいと思うので、集落営農推進員などリーダー的な人への働きかけが望まれる。

農都創造部 細やかな説明が不十分であるとの話をよく聞く。制度の告知はあっても、実際に事業を始めるにはもっと細やかな説明をしてほしいとの要望を聞くので、丁寧な対応を考えてもらうよう意見としてしておく。

小島座長 同プラン策定のスケジュールは厳しいものになると思われる。プランの作成例を示す等、十分な支援について考慮が必要である。

■ 日程第 5 議案第 9 1 号 平成 2 9 年度篠山市農業共済事業会計補正予算（第 2 号）

【主な説明】

農都創造部より補正予算書に基づき説明（農都政策課）

【主な質疑】

(なし)

■議員協議

(意見なし)

- 議案第86号 平成29年度篠山市一般会計補正予算(第8号)
議案第87号 平成29年度篠山市下水道事業特別会計補正予算(第2号)
議案第88号 平成29年度篠山市農業集落排水事業特別会計補正予算(第2号)
議案第91号 平成29年度篠山市農業共済事業会計補正予算(第2号)
議案第92号 平成29年度篠山市水道事業会計補正予算(第2号)

—部長・市長への確認質問なし—

■意向確認

- 議案第86号 平成29年度篠山市一般会計補正予算(第8号)
議案第87号 平成29年度篠山市下水道事業特別会計補正予算(第2号)
議案第88号 平成29年度篠山市農業集落排水事業特別会計補正予算(第2号)
議案第91号 平成29年度篠山市農業共済事業会計補正予算(第2号)
議案第92号 平成29年度篠山市水道事業会計補正予算(第2号)

—全員賛成—

小嶋座長 この結果を含め、執行部との質疑、答弁の内容について、座長報告を行いたい。報告については、座長に一任願いたい。

—異議なし—

分科会閉会 15:10

平成29年 月 日

補正予算特別委員会産業建設分科会
座長